

単元名 「育てよう、命を守る力 ～私の防災ストーリー～」

目指す子供の姿

災害から自分の命を守るために必要な知識や情報を身に付け、防災に向けた行動や備えについて理解を深めることができる。さらに、体験的な活動や聴き合い、調査等を通して得た情報を整理・分析し、自分なりの考えや課題意識をもつことで、生涯にわたって高い防災意識をもち続け、地域や他者と共に行動しようとする。

全50時間 本時33/50

第1次 災害を“自分ごと”として考えよう (3時間)

地震について話し合う。

地震は怖い。なぜならいつ、どこで起こるか分からないから。

日本は地震が多い国だ。昨年1月1日も能登で大地震が起きた。

富山県は地震が少なく聞いた事があったけれど、実際に震度5以上の地震があるので、これから何が起こるか分からないね。

教師のボランティアの経験を聴く

震災で命を落とすことは、家族にとっても本当に悲しい事だと思った。

もし、自分の家族がそうならって考えたら、怖くて、悲しくて涙が出そうだった。

これは訓練？本物？どっち？どうすればいいの？

怖い。逃げたくても身体が動かない。

どうせ訓練だから、揺れないと思うし、慌てなくていいよ。

周りに何も無い。急いで机の下に行かないと。

緊急地震速報がなったときの自分の動きをビデオで振り返る。

音がなった瞬間、「怖い！」と感じていても虫のように丸くなっていった。でも、それでは避難できないからダメだと思った。

これがもし、本物の地震だったら、自分の命は助かっていたかな？自分の命が危なかったかもしれない。

ぼくたち・私たちが命を守る力を育てよう！

防災ストーリーをはじめよう

第2次 命を守るために、育てたい力について考えよう・学習計画を立てよう (10時間)

命を守る力とは？①

伸ばしたい力を考えたり、根拠を調べたりしよう⑤

今の自分を見つめ直し、自分の力を分析しよう①

どのように力を育てていくか計画しよう③

A児

命を守る力は、いろいろあると思う。ただ逃げるだけでなく、慌てず安全に逃げたり、みんなの命を守ったりする力だと思う。

安全に逃げるためには、まずは冷静に行動することが大切だと分かった。災害後のことを予想する力も必要だと思った。

命を守れた人は、「津波が来るかも」や、「火事になるかも」と予想して、素早く逃げた人が多い。予想する力は大切だな。

みんなで「育てたい力」について発表し合う。

友達の話を聴き、知識や備える力が大切だと思った。自分は家での備えは何もしていないから、備える力も付けたいと思った。

A: 私は、備える力を育てていきたいと思う。レーダーチャートを見ると、知識も育てる必要があると感じたので、両方を育てていきたいな。

B: 「知識」と「備える力」が大切だと思っていたけれど、「協力する力」も大切だと思ったので、⑤に入れたよ。これからは、①と⑤を特に育てていきたいな。

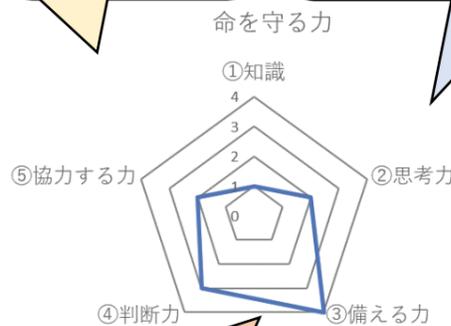
B児

命を守る力は、災害への正しい知識をもつことだと思う。避難場所や、避難時に必要な知識があれば、命を守る確率が上がると思う。

災害に関する多くの知識があった。これらを知ることによって、命を守る可能性を高められることができると思う。

避難した後も、避難所や、電気や水道が止まっている環境での生活は大変だと思う。その中で必要な知識を調べていきたい。

自分が大切だと思った「知識」や「備える力」の大切さがみんなに伝わってよかったな。これからも頑張ろう。



C: みんなで決めた①～④の力以外に、何を伸ばそうかな。「冷静に避難する力」が必要だと考えていたので、⑤は「冷静さ」にしようと思う。でも、「冷静さ」って、どのようにして育てていけばいいのかな？

今の自分自身の姿から、特に伸ばしていきたいと思う力を決める。

C児

とにかく災害から命を守りたいと思うけれど、どんな力かは、イメージが難しい。自分の行動を振り返ってみよう。

緊急地震速報が流れたとき、慌ててしまった。友達とぶつかってすばやく避難できなかった。これではダメだ。

まず、落ち着いてにげることが大切だと思う。そのために、落ち着いて、冷静に避難するための力を付けていきたい。

輪島市で実際に被災された方の体験談を聞き、感じたことや考えたことを交流し合う。

私は、備える力を伸ばしたいな。まずは、防災グッズの使い方について詳しく調べて、いつでも使えるようにしたいな。

協力する力を育てていきたいな。避難する時や、避難後の避難所生活でも多くの人の協力で、命を守ることができそうだよ。

冷静さを育てたいと思ったけど、難しい。まずは調べやすいような知識と備える力から始めてみよう。

実際に被災した方の話を聞いて驚いた。水や電気がない状態で3日間も生活できないと思った。

被災された方は、1日目から、地域の方々と助け合っていたと聞いた。やはり助け合いが欠かせないと思った。

被災された方の話を聞いて、やはり冷静でいることは難しいなと思った。それでもどんな被害が起きるのか事前に予想できれば、少しは冷静でいられるかな。

ただ調べるだけではダメだ。実際に使えるかどうか重要だ。簡易トイレや非常食を実際に利用してみる方が大事だ。

どうやって協力する力を高めようか。まずは協力することの大切さや、協力が必要な場面について調べていこう。

知識は本やインターネットに情報はいろいろとありそう。でも、自分がどんな知識を手に入れたいかまず、はっきりさせよう。

グループや全体で交流し、活動の計画を明確にする。

自分は「備える力」を伸ばすぞ。そのためにまずは、防災グッズの使い方を詳しく調べる。次に、実際に簡易トイレや非常食などを使ってみて、本当に使えるか確かめる。最後に、その経験を生かして、自分の備えをもっとよくしていくぞ。

自分は「協力する力」を伸ばすぞ。まず避難時や避難所生活で、どんなときに協力が必要かを調べてみる。次に、友達や家族と助け合う場面を考えて、どう協力するか練習する。最後に、実際にボランティアや協力する体験をしてみ、その経験を生かすぞ。

自分は、まずは「災害の知識」を育てるぞ。次に、その知識と冷静さを結び付けて考えたい。最後に、防災訓練や友達とのシミュレーションを通して落ち着く方法を試しながら、冷静に行動できるか練習していくぞ。

〈他教科との関連〉

【国語科】

- 文章に説得力をもたせるには
 - ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える。
- もう一つの物語
 - ・粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書く。

【社会科】

- 自然災害を防ぐ
 - ・我が国で起こる自然災害と国土の自然条件を関連付けて調べる。
 - ・国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を理解する。

【道徳】D命の尊さ

- 命をかけて守る—山岳警備隊—
 - ・教材文を読み、自分の命を大切に、周囲の人と支え合って生きようとする態度を育てる。

第3次 育てたい力を伸ばそう(30時間)

学習計画を基に、なりたい自分に向けて1人学習を進めよう⑩

「備える力」を中心に育てたいと考え、防災セットを自分で準備したり、使いこなせるようになったりしたいと願うA児

防災セットについて調べるぞ。必要な物がたくさんあることが分かった。でも、全部の使い方を本当に分かっているかな？

調べて使い方が分かったぞ。でも、他にも必要な物があるかも。自分の生活や家族のことを考えて、必要だと思う物を加えて、自分の防災セットを作ってみよう。

「協力する力」を育てようと、災害ボランティアについて調べ、自分も将来ボランティアに行きたいという願うB児

自分一人では命を守りきれないかもしれない。みんなで助け合うことが大切だと感じた。そこで、「災害ボランティア」について調べてみよう。

ボランティアがどんな活動をしているのか分かってきた。でも、活動している人はどんな思いでやっているのだろうか？そこをもっと知りたい。

「思考力」を育てたいと考え、地震が起きたときに、どう行動すればいいか予想し、安全に避難できるようにしたいと願うC児

災害に対して「これは危険かも」と予測する力が大切だと気付いた。そこで、学校や家を見て回り、地震が起きた時に危険が予想される場所を探し、なぜ危険なのか考えてみよう。

学校や家には多くの危険箇所があった。そこで、どんな危険が予想されるかをクイズにして出し合い、自分だけでなく、みんなの思考力も高めることにした。

少人数での交流又は、全体での交流(必要に応じて)

みんなに自分の防災セットを見てもらった。重くて避難しづらい」とアドバイスももらった。確かに、歩いて避難するときには、もっと軽くしないとイケないな。

友達から「実際にボランティアを経験した人に話を聞けばいいのでは？」とアドバイスももらった。よし、ボランティア経験者にインタビューしてみよう。

調べやクイズを通して、避難するまでにはさまざまな予想と判断が必要だと分かった。特に津波のような大きな危険では、常に最悪の事態を想定して動くことが命を守ることに繋がると感じた。

校外学習 四季防災館・防災士の方との交流(社会科との関連)

四季防災館の人にも見てもらった。「どれも大切だけど、〇〇はすぐには必要ないよ」と教えてもらった。よし、これで更に軽量化できそうだ。

話を聴くと、被災された方の力になれたことに大きなやりがいを感じていると分かった。自分もそのよさや大切さを実感したい。今の自分にできることはないだろうか。

学習を進める中で、思考力と判断力はセットだと気付いた。考えて、そして判断する。その力を高めるためには、実際の場面を想定して、災害ごとに適した行動を考えることが大切だ。

自分のオリジナル防災セットが完成した。みんなに紹介したら、「自分も作ってみたい」と言ってくれた。この活動を通して、災害に本当に役立つものは何かを真剣に考え、備える力を高めることができたぞ。

調べてみると、被災された能登半島の方へ「手紙を書く」というボランティアがあった。それをやってみると、相手から反応が返ってきて本当にうれしかった。ボランティアのよさに気付く、「協力する力」を高めることができたと思う。

「もしも〇〇にそうぐうしたら？」という紙芝居風のクイズを作り、みんなに出すことができた。思考力と判断力の関わりや、災害ごとにどんな行動をすれば伝えることで、思考力が高まったと思う。

第4次 活動を振り返り、防災ストーリーにまとめよう(7時間)

防災ストーリーを製作し、交流しよう⑦

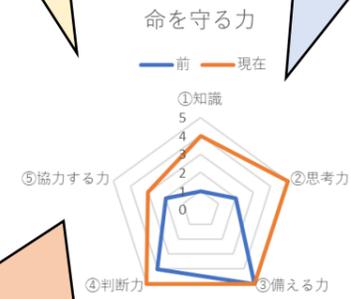
終末

防災セットづくりを通して、「備える力」を高めることができた。また、調べる活動を通して、「知識」も育てたぞ。この学習で大きく成長できたと思う。

ボランティアを通して、「協力することの大切さ」を理解でき、「協力する力」を大きく育てることができた。この力をこれからも生かして、実際に災害が起きた時、自分の命だけでなく、誰かの命を救えるようにしたい。

私は、防災セット作りを通して、何を入れるか、どこに置くのかは、一人一人違うことが分かった。また、中身を使いこなせることが大切だと分かった。

この学びを家でも、家族と一緒に防災について話し合ったことで家族の防災意識を高めることができた。地震が起きても自分は命を守れるという自信ができた。



思考力を育てようと思い、色々な災害の場面を予想してきた。そして、判断力も大切だと思い、どちらの力も育てることができた。そんな自分の成長を物語りにしてまとめたいな。

わたしはこの学習で、「思考力」を育てたいと思い、災害が発生した時にどんな危険があるのかを、たくさん考えてきた。いろいろな危険があるということが調べて分かったし、自分の想像を超える危険が起こることも分かった。だからこそ「常に最悪のことを考えて行動する」ということが大切だと思った。

そういう風に考えることができるようになった自分は、「思考力」が高くなったんじゃないかと思う。しかし、今まで大きな災害を経験していない自分が、本当に災害が起きたら行動できるのか、ということに対しては分からない。だからこそ、命を守る力は今後もずっと育てていかなければならないと思った。

〈教師の支援〉

【視点① 主体的な学びを支える手立て】

- 「もし、今災害が起きたら？」という導入場面での疑似避難体験的活動

単元の導入で模擬的に緊急地震速報を流し、避難行動を体験・撮影して振り返る。子供は其中で自分の行動や感情を言語化し、命を守る力の不足や課題に気付く、「どうすれば自分の命を守れるようになるか」という主体的な問いをもつ出発点とする。
- 「レーダーチャート」による見通しと目標の明確化

学習冒頭に「命を守る力」を〈判断力・災害への知識・備える力・思考力・助け合い〉等の視点で自己評価し、レーダーチャートで数値化・可視化して自分の強みと課題を把握し、育てたい力と学習の見通しを明確にする。終末には同じチャートを別色で再記入し、前後比較で成長と達成感を実感する。
- 子供の思いや願い、疑問を主体的な学びにつなげる「こんなことができますか」掲示板

学びの原動力を引き出すため、子供の「やってみよう」「調べたい」という思いを自由に書き、掲示できる「こんなことができますかカード」を設置する。教師はこれを手掛かりに支援や助言を行う。また、互いの願いを見合うことで、安心して追究に踏み出せる雰囲気をつくる。
- 個々の追究を見取り、必要な支援に備える「追究記録シート」の活用

子供一人一人の追究状況を把握し、必要な支援を共有するために「追究記録シート」を活用する。活動の様子や思い、支援内容を簡潔に記録し、今後の学習指導の際にT、Tを行う教師間での継続的支援に生かす。
- 自分の成長を「防災ストーリー」としてまとめる振り返りの工夫

学びの終末に、これまでの過程や心の変化を「私の防災ストーリー」として物語化する。自分の問いや挑戦、変化のきっかけを言葉でたどることで、自分が学習の主人公であったことを実感し、学びの意味を深め、今後の自分の生き方に生かせるようにする。

【視点② 協働的な学びを支える手立て】

- 協力や相談を促す「協力掲示板」の設置

個別に追究を進めつつ、定期的に互いの学びを聴き合う時間を設ける。友達の視点や課題意識に触れることで新たな発想や視野を広げたり、質問や称賛の言葉を伝え合うことで、今後の追究意欲を高めたりする。
- 他者の姿や取組から学ぶ力を育てる学習環境の工夫

フロア内に「相談コーナー」や「やってみよう掲示板」「見て見てコーナー」を設置し、子供同士が自然に声をかけ合い、助け合える環境を整える。こうした工夫により異なる視点や行動に触れ、他者のよさや課題解決の方法に気付く、自分の考えを整理・再構築する力を育てる。
- 学びの跡を振り返ることができる掲示の工夫

ゲストティーチャーの講話や校外学習での体験、感じたことを記録・掲示して「共通のよりどころ」とする。掲示物を見ながら話し合うことで共通のイメージや共感が生まれ、対話が深まり、学びを「個から全体へ」広がるようにする。
- 互いに協働的に学び合うことのできる活動時間の保障

一人学習に没頭できる時間を確保しつつ、意識的に余白時間を設けて他者の学びに触れる機会を意図的に与えることで、自発的な協力や新たな視点が生まれ、協働の価値に気付くことができるようにする。